

社会福祉法人 ぶどうの木
平成27年度事業報告

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

**はじめに — 障害者と一般の人々が
共生社会をめざす動き**

ここ数年来の社会の動きをみますと、世界も日本も障害者問題と正面から取り組む姿勢を見せています。事業報告に入る前に、ざっとご紹介いたします。

眼科医の仕事

平成27年6月25日から2日間、福島市内で、当館の上部団体・日盲社協の全国大会が開かれ、2日目の講演会には国立リハビリテーションセンターの眼科医・仲泊聡先生が「眼科医と視覚障害者との繋がり」と題して講演しました。先生はかねてより、眼科医として目が不自由になった人について、「これから気をつけて」というだけでいいのか、という疑問を持っていました。治療後の見え方は様々ですが、「身障手帳や障害年金の活用、見えなくてもできる仕事の紹介など」やることはたくさんあると指摘しました。そのため、視覚障害者が利用する点字図書館や盲学校、就労支援を行う福祉施設との連絡網を作りたいと呼びかけました。連帯感に満ちた意欲あるお話でした。

実は仲泊先生とロゴス点字図書館は3年前から繋がりがありました。平成25年に戸山サンライズで職能開発開発センターが開いたロービジョンセミナーで、「眼科医より眼鏡屋さんの方がよほど視覚障害者によくしている」と講演され、驚かされたことがあります。その後、視覚障害者の各種団体と接触し、平成26年には盲人団体のトップクラスと会話を重ね、2月には飯田橋で「リハビリテーションの空白」というシンポジウムを開いて成功させました。そして、何かと情報の多い点字図書館や就労支援施設などに関わりを持ち、視覚障害者の世界と深く関わるようになりました。

昨年夏、仲泊先生が勤務する所沢の国リハに点字図書館関係者を集め、意見交換を行いました。当館の職員も出席し、図書館の現状を説明しました。先生は本年、神戸の方に転勤しましたが、同時に全国視覚障害者情報提供施設協会の理事に就任されました。大変びったりした人事だと感心しました。新しい仕事に期待したいものです。

合理的配慮とは何か

2006年12月13日国連の採択した障害者の権利条約は、これまでの世界の障害者運動が展開してきた主義・主張が公的に認められた意味を持ちます。その内容、特に障害者の求めるものについて、行政は合理的配慮をしなければならないと書かれていますが、問題はその合理的配慮の中味です。同条約の第2条には「合理的配慮とは、障害のある人

が他のものとの平等を基礎としてすべての人権及び基本的自由を享有し又は行使することを確保するための必要かつ適切な変更及び調整であって、特定の場合に必要とされるものであり、かつ、不釣り合いな又は過重な負担を課さないものをいう」とありますが、現実にはこの文言をどう具体化していくかです。

私たちの社会には体に障害をもつ人、重い病気の人、心の病気に悩む人などがたくさんいます。それゆえ周りの人から差別され人間扱いされない不幸な状態が続きました。人間として生きる権利、一般の人と同じ権利を主張しても、「障害があるから」と認められない歴史が続きました。第2次世界大戦後、人権を認めさせるための「障害者も健常者も共に平等に生きたい」という運動が起こり、1981年には国連による国際障害者年運動が世界に広がりました。そしてこうした運動の成果として、2006年に国連の障害者権利条約が採択されました。

ロゴスは点字図書館であり、運動団体ではありません。しかし、視覚障害者の生活状況に不便はないか、点字図書や録音図書は不足していないか、マッサージやはり・きゅう師は少なくなってきたが新職業をもっと開拓できないかなど、いつも気にしています。単に図書を貸し出しているだけでなく、本を読んで下さる人の生活、望みなどを失礼のない範囲で気にしています。

今回の障害者権利条約の国連での採択は、批准した各国が国として障害者問題に取り組み、住みよい社会作りに進み出したことを意味します。そのことの重みを思いつつ、この条約が平和な人間づくりに貢献できるよう、私たちも協力をしたいものです。

次に、こういう新しい社会の動きの中で、当館がどのような事業を手がけてきたかをご報告いたします。

1. 障害者差別解消法の準備

6月4日、内閣府からロゴスに対して、平成28年4月より施行される障害者差別解消法について、各省庁に事前の具体的な対応を検討してもらうため、視覚障害者に対して点字の資料を作成してほしいとの要請があり、早速、他の点字出版施設と合同で資料づくりに入りました。車椅子の人や視覚障害者、また聴覚障害者が役所を訪れた時、窓口の担当者は、その障害に応じた対応ができるか、どういう配慮をするかが具体的に書かれています。このような積み重ねの中から、障害者も健常者も共生社会を作っていくための努力が始まります。

2. 恒例の二つのイベント

尊者・北原怜子にスポット

第14回ロゴスの文化教室（講演会）は6月6日、四ツ谷のニコラ・バレで開催しました。テーマは「アリの町のマリア・北原怜子の生涯とその輝き」、講師はコンベンツアル聖フランシスコ会の谷崎新一郎神父。「谷崎神父さんがいい」と推薦されたのは岡田理事長です。なぜかといいますと、昨年1月にバチカンより北原さんに尊者という称号が与えられたからです。北原さんは殉教者でない一般信徒であり、現代の社会で福音を生きるための模範として注目されています。今後、福者・聖人とされるには、彼女の取り次ぎにより奇跡を生じることが必要になります。その意味で理事長は、北原さんの業績を集める立場にある谷崎神父さんを薦められたのでしょう。当日の参加者は80名でしたが、もっとたくさんの方にお知らせして多くの方に聞いていただきたい内容でした。

夜か昼かの見極めつけた映画会

9月26日、なかのZERO大ホールでチャリティ映画会を開催しました。上映作品は「42 世界を変えた男」という野球映画で、大リーグで初の黒人選手として登場して、不当な人種差別を受けるが、歯を食いしばって名選手になるまでの物語で、好評でした。ところでこの映画会には、これまで平日の夜の開催は多くの皆さんが、会場に行きにくいのではないかという心配がありました。そこで、試しに土曜の午後の会場獲得のためくじ引きを申し込んだところ、幸いなことに当たりました。このためたくさん入場者が増えるのか期待しましたが、結果として入場者は600人どまりで、夜の開催より少ない数字が出ました。そこで映画会は次回から、また平日の夜に戻し、ロゴスに相応しい上映作品を選ぶことになりました。

3. 点訳・音訳事業

点訳事業

(1) 点訳事業部では、日常の点訳・校正部門の仕事は従来通りでしたし、ボランティアを含む勉強会の開催（月1回、2月・8月は休み）を継続しました。

(2) 初心者向け講習会開催は、校正担当者の交代もあり、準備ができず次年度以降への宿題となりました。

音訳事業

(1) 音訳図書製作の充実 ― ボランティアのフォローアップのために、音訳勉強会・音訳校正勉強会の開催（各会月1回、8月はお休み）を続けました。なお音訳勉強会の奇数月は外部講師の恵美三紀子氏が担当されました。また、デイジー編集ボランティアのフォローアップのために、年1回勉強会を開催しています。

「視覚的資料及び専門書の音訳技術研修会」（共催は日本ライトハウスと新宿戸山図書館）へ三井が参加しました。

(2) 所蔵カセットテープのデジタル化 — 「フィラデルフィア会・声の文庫」より移管されたカセットテープのうち、デジタイズ編集が可能なもののデジタル化作業を624タイトル行いました。残りは28年度中に仕上げる予定です。

(3) フランシスコ会聖書研究所訳注『旧約聖書』録音版製作作業の継続は、現在「詩編」以外の音訳は終了しています。

(4) 今年も音訳者養成研修会が実現できませんでした。募集要項を決め、関係機関を通して募集しましたが、定数に至りませんでした。地の利が悪いのか、年齢制限の問題か、募集時のチェックがきびしいのかなど、原因を分析しつつ開催にこぎ着けたいものです。

「点字図書目録5」及び「テープ・CD図書目録4」（いずれも2011年4月11日～2015年3月31日）を製作しました。

4. 中途失明者のための点字教室

平成23年から現在までメンバーに一部変更がありましたが、月に2回、2名の方が講師の石田滋子先生の指導により続けています。石田先生ご自身も中途失明者であったことから、その経験を生かしながら、普通の点字の点より大きいラージ点字で作られた教材を使いながら、ゆっくりとしたペースで進めています。高齢になって指先で点字という文字を読むのは大変集中力がいらしますが、皆さん少しずつ点字に慣れていく様子です。

あまり目立たない教室ですが、当館の仕事としてすっかり定着しました。勉強されている皆さんはゆったりと学んでいます。今後も継続していきます。

5. 機器整備を充実

(1) かねてより懸案だった高速点字プリンターは、森村豊明会様より100万円の助成を受け、約395万円で購入できました。これは前年度に機器整備のために積立てた施設整備金300万円を取崩して合わせたものです。

(2) 機能が弱くなったカップリングカッター（紙切り機）買い換えのため、昭和会館様から50万円の助成を受け、57万円で購入しました。7万円は自己負担です。

(3) 同じ機器の中でも、10年を越して使用している機材が多くなりました。近いところでは自動製版機、亜鉛原板を使って印刷する印刷機などは、印刷中ガタガタ変な音を出したり、ローラー印刷のローラーがすぐ汚れたりなど、故障が多くなりつつあります。

点字機器の製作所が公式には1社しか見あたらない現在、こうした器具を手がける業者を見つけないと困ることになります。選挙や点字広報などの情報提供が必要な時、「印刷機が故障で……」ではすまされません。これは、ここ数年で解決しないといけない課題です。

6. 定期刊行物

(1) 点字月刊誌「あけのほし」 — 毎回読者離れを嘆いていますが、今年も同じです。点字だけでなく、テープ、CD、FDなどと読む媒体を広げましたが、100部以上の発行には遠い状態です。ロゴスの看板雑誌ですので、編集内容を含めて立て直しを図ります。

(2) 広報や雑誌が取れない — 毎月安定した収入がほしい場合には、各自治体の点字広報とか議会だよりなどを2点くらい受注できればいいのですが、これがまた大変です。たいていの市や県では長らく手がけている点字出版施設がカバーしており、入札で争うことはできません。現在の選挙プロジェクトみたいに、お互いに協力しあって、その点字出版所の力量に応じた仕事配分ができればいいのですが、そこまでいくのは大変です。この問題は深刻です。ここ2年間は、今年はきついという覚悟をしていましたが、年度末になり点字印刷などの委託事業が重なり、赤字を免れました。

7. 未来像を描けるか

昨年の中間の理事・評議員会で「いつも報告内容がマンネリ化しているように思えるが、この点字図書館をこれからどういう方向に持っていくのか、その未来像がないのでは」というご意見が出ました。また、3月の予算会議の時も、「10万、20万単位でもいいから、少しでもお金が余れば、貯金を将来のために施設整備積立て資産に入れるべきではないか」と再び指摘がありました。

この背景には、平成16年から21年まで、理事会が立ち上げた「新館建設委員会」の活動が思い起こされます。公式に募金を始めたり、土地を安く提供してくださるところも出たりして、何件か実地に見てきたり、専門家に新館の内容を見ていただきましたが、結局、資金不足、盛り上がりが低調だったなどの理由で、ストップがかかりました。

そういう経験を生かしながら、これからロゴスの未来をどう開いていけるかは、極めて大事ですので、新しい角度で検討する必要があると痛感しています。

8. 平成27年度蔵書製作数

以下に27年度の点字・テープ・CDなどの蔵書数と貸出数の流れを記載します。

蔵書数は前年とほとんど変わりありません。ただ、テープの蔵書数が目立って多いですが、これは「フィラデルフィア会・声の文庫」から移管されたテープがあるからです。

CD図書の内訳ですが、音声デイジー図書はMP3フォーマットの音声データが構造化されていますので、CD1枚に約50時間収録が可能です。その上、見出しのみを再生したり、希望する見出し箇所へジャンプして再生することができます。主に視覚障害者向け音声図書として普及しています。

マルチメディアデイジーは音声及びテキストデータの構造化と、音声・テキスト・画像データなどの同期再生が特徴です。活字だけでは文の内容を理解しづらいディスレクシアの人々に有効であることが証明され、教科書の配布形式として製作されています。テキストデイジーは、文字データを構造化したもので、音声合成や点字ディスプレイでテキストを読ませることを想定しています。ファイルサイズが小さく、短期間で製作できます。

分類別貸出では、「考える図書」を掲げる図書館として、全体の中で点字4割、テープ2割、CD3割と哲学分類の貸出が目立ちます。

サピエ登録・利用も伸びています。蔵書にした図書の点字データ、音声デイジーデータ、テキストデイジーデータはすべて、サピエに登録しています。点字データの利用者は1109人でした。音声デイジーデータの再生延べ利用者は3081人、ダウンロード利用者は1万3180人です。

オンラインリクエストで当館から他館への送信数は1165回です。

蔵書数

	点字図書		テープ図書		CD図書	
	タイトル数	冊数	タイトル数	巻数	タイトル数	枚数
総蔵書数	2,394	7,984	4,995	27,575	2,892	2,939
今年度受入数	41	155	16	125	114	116
自館製作	32	121	16	125	114	116
他館製作	0	0	0	0	0	0
寄贈	9	34	0	0	0	0
今年度除籍数	39	115	0	0	2	2

〈参考〉 CD図書総蔵書数内訳

音声デジタル図書		一般CD図書		マルチメディアデジタル図書		テキストデジタル図書	
タイトル数	枚数	タイトル数	枚数	タイトル数	枚数	タイトル数	枚数
2,820	2,832	65	100	5	5	2	2

資料の貸出

	点字図書		テープ図書		CD図書	
	タイトル数	冊数	タイトル数	巻数	タイトル数	枚数
総貸出数	173	517	848	5,664	2,642	2,779
個人への貸出	67	170	186	1,167	678	693
他館への貸出	39	114	308	1,917	1,133	1,251
他館より借受貸出	67	233	354	2,580	831	835

分類別貸出数

	点字図書		テープ図書		CD図書	
	タイトル数	冊数	タイトル数	巻数	タイトル数	枚数
0 総記	0	0	4	14	33	33
1 哲学	77	205	160	853	955	1,005
2 歴史	0	0	44	331	156	156
3 社会科学	12	31	28	137	151	151
4 自然科学	3	5	2	29	59	145
5 技術	2	3	2	8	5	5
6 産業	1	3	1	5	8	8
7 芸術	3	7	15	71	109	109
8 言語	2	6	0	0	7	7
9 文学	59	226	570	4,074	1,056	1,057
J 児童図書	14	31	22	142	103	103
合計	173	517	848	5,664	2,642	2,779

サピエ登録・利用状況

点字データ

アップタイトル数	アップ冊数	ダウンタイトル数	ダウン冊数	ダウン延べ利用者
34	139	380	1,373	1,109

デジータ

アップタイトル数	アップ時間	再生タイトル数	再生時間	再生延べ利用者
130	1,160時間 34分	565	1,220時間 35分	3,081

ダウンタイトル数	ダウン時間	ダウン延べ利用者
895	7,413時間 39分	13,180

オンラインリクエスト送受信件数

リクエスト送信数	内 訳		リクエスト受信数
	施設	個人借受	
1,165回	1,163回	2回	1,430回